

ボーイスカウト東京連盟  
あすなる地区 広報誌  
第 17号

2017年 12月 5日  
組織拡充委員会

## 指導者研修セミナー 一日コースで開催

12月2日(土)、あすなる地区指導者研修セミナーが阿佐谷地域区民センターで開催されました。

セミナーは、「青少年教育のありかた・そしてスカウティング」をテーマにして、指導者のボーイスカウト活動に関する理解の向上、ゲーム・ソングのスキルアップのため、以下の6人の講師の講演や実演がありました。

これまで指導者研修セミナーは、あきる野市の杉並区秋川研修室で1泊2日で行なわれていましたが、本年は一日型で開催されたものです。

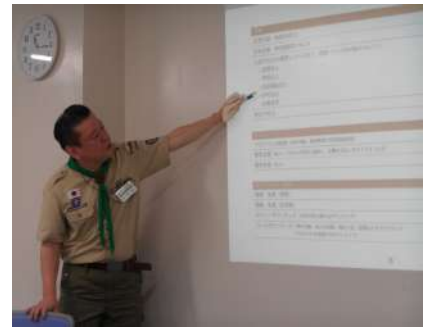
- |          |                   |                     |
|----------|-------------------|---------------------|
| 1. 藤山健次郎 | 杉並区保健福祉部児童青少年課長   | 「杉並区の青少年教育施策」       |
| 2. 下地俊一  | 地区コミッショナー         | 「青少年教育とスカウティング」     |
| 3. 田中瑞人  | NHKエグゼクティブプロデューサー | 「メディアにおける青少年教育」     |
| 4. 沼上晶子  | 地区トレーニング要員        | 「ソング・ゲームの魅力とスキルアップ」 |
| 5. 飯沼利雄  | 地区副コミッショナー        | 「BS部門、VS部門の進級課程の改定」 |
| 6. 高橋宏人  | 地区協議会長            | 「スカウティングと私」         |



参加メンバー



杉並区藤山課長の講演



下地コミッショナー



NHK田中氏の講演



ゲーム、動作つきソングの練習



動作つきソングの練習



飯沼副コミッショナー



高橋地区協議会長

## スカウトの森で忍者修行！ なかのまちめぐりで開催

11月12日(日)、中野セントラルパークアベニューで、「なかのまちめぐり博覧会」のイベントとして、「スカウトの森で忍者修行！」をテーマにしたボーイスカウト活動の広報、体験会が、地区各団の協力により開催されました。

参加した子ども達は受付で参加カードを受け取り、忍者になったつもりで、味あての術、手さぐりの術、かくし文字の術、ロープ結びの術、笛づくりの術、しゅりけんの術、川わたりの術、しのびの術に挑戦しました。

また、忍者修行のコースには、ボーイスカウト活動の理解を深めることができるボーイスカウトのコーナーや、キャンプを少しだけ実感できるキャンプサイトのコーナーも設けられました。

それぞれの術のコーナーは、各団が事前に準備し、当日は子ども達に術の説明や運営を行いました。

各コーナーでの術の修行が合格すると、参加カードに修了のスタンプが押され、全部を修了した子どもには、免許皆伝カードと、参加記念品が渡されました。

免許皆伝カードの裏面には、当地区の検索、問合せ先が記されており、参加カードの裏面はアンケートにし、活動資料の送付を希望される方の記入欄も設けて、記入をいただきました。



受付



味あての術



手さぐりの術



かくし文字の術



ロープ結びの術



笛づくりの術



しゅりけんの術



川わたりの術



しのびの術



ボーイスカウトのコーナー



キャンプサイトのコーナー



## すぎなみ舞祭であすなろ地区紹介

10月15日(日)、杉並区蚕糸の森公園ですぎなみ舞祭が開催されました。すぎなみ舞祭は子どもが主役の踊りの祭典で、今年は第10回の記念大会となりました。あすなろ地区では前日に会場設営の奉仕を行い、15日は雨天でしたが、テント内でボーイスカウト活動や地区内各団を紹介するコーナーを設けました。

スカウトの絵が描かれたボードにロープの輪を投げ入れる無料の輪投げのコーナーでは、多くの子どもが立ち寄って輪投げに挑戦し、参加した子どもには小枝を削って作った鉛筆型のストラップの記念品とともに、地区内各団やボーイスカウト活動を紹介する、あすなろ地区の案内チラシを配布しました。

また、あすなろ地区ではすぎなみ舞祭の公式ガイドブックに、ボーイスカウト活動の様子や連絡先を記した協賛広告を出しました。



### 蚕糸の森公園の記念植樹

すぎなみ舞祭が開催された蚕糸の森公園には、あすなろ地区が発足した平成22年4月18日に植樹した「あすなろの木」が、7年を経て大きく育っています。

場所は公園の池の東の木立の中にあり、「ボーイスカウトあすなろ地区発足記念 2010.4.18」や「ビーバーの木」など、隊別の表示板が今も設置されています。

これからもあすなろ地区のスカウトのすこやかな成長とともに、「あすなろの木」が枝葉をさらに広げていくことを楽しみにしたいと思います。

蚕糸の森公園に立ち寄られた際には、見学ください。



## ボーイスカウト講習会開催

9月10日（日）西荻地域区民センターで、東京連盟第251回ボーイスカウト講習会が日本連盟副リーダートレーナーの安永武仁さんを主任講師として開催され、新しく指導者として奉仕される方やスカウトの保護者など、17名の方が参加しました。

講習会は地域社会の方々を対象に、体験を通してスカウト運動の概要とスカウト教育の原理と基本的な内容、成人の支援が必要な運動であることを知っていただき、この運動の良き理解者を増やすために開催されています。

講習会では緊張をほぐすゲームから始まり、座講による話だけでなく、理解を深めるため映像を活用した解説や、時にはストレッチ体操もありました。

また、会場近くの桃井はらっぱ広場にハイキングして、班集会を開いたあと、お互いに協力しながら3つのチェックポイントをまわり、公園内の木陰でホットドックの楽しい昼食となりました。



## 安全促進フォーラムに参加して

地区安全管理委員長

武藤八朗

9月10日（日）、日本連盟主催の安全促進フォーラムが水道橋のボーイスカウト会館で開催され、当地区から私と大浦昌久副委員長（中野5団）が参加しましたので、皆さんに報告し、お伝えしたいことをとりまとめました。

運営スタッフは、日本連盟セーフフロムホーム・安全委員会委員長の増田秀夫氏、副委員長の水戸守雅之氏、委員の宇山健太氏の3名で行われ、東京連盟理事長の山内直元氏の挨拶、増田秀夫委員長による主旨説明で始まりました。

『そなえよつねに共済と対人・対物賠償責任保険、事故データ分析』は、宇山健太氏から話がありました。

『裁判事例に学ぶ安全対策』は弁護士の水戸守雅之氏から説明があり、裁判事例をもとに、ボーイスカウトの活動中の事故を想定し、事前準備などの状況に応じた過失割合の程度を考えるためグループ討議と発表が行なわれました。

グループ討議では、事故や危険の回避のために、活動を縮小したり、制限しないようにするためには、指導者の経験と勘で事故を未然に防ぎ、事件が起こさないための話し合いや事前準備が必要となることを確認しました。

『有効な安全対策を考えるための原因分析』は宇山健太氏から説明があり、実際の事故例をもとに、今後起きないようにするための対策について討議が行われましたが、「スカウトのための安全な活動」とは、団・隊として事故を起こさないように「あらかじめよく考えておく」こと、「考えた結果の安全ルールを確実に守る」の安全管理の取り組み方が大切なことを強調したいと思います。

水戸守雅之氏からの『安全促進拡大フォーラムを開催するために』では、昭和51年8月1日、三重県安濃川渓谷での子供会のハイキング中に、9歳の少年が川に転落して死亡した事件の裁判事例について、被告である子供会側の過失、損害賠償義務、過失割合について、グループ討議で考え、発表しました。

ハイキングを引率した指導者としては、無償の奉仕活動中に起きた事故ですが、我々が考える指導者としての過失割合と、実際の賠償責任の負担の大きさに驚きました。各隊の指導者としては、野外活動にあたっては、きちんとした計画、下見、準備をして実施することによって、万が一の事故の場合には、指導者の過失割合が軽減されることを理解する必要があります。

「そなえよつねに共済」については、日本連盟より各団に配布されている「そなえよつねに共済／賠償責任保険 手引き」に詳細が記されていますが、「事故発生状況受付簿」とともに提出が求められる「活動計画書」には、「活動名、活動日時、活動場所、活動内容、活動計画書の作成日」の5項目が記入され、「参加者名簿」が作成されていることが前提となります。

「活動計画書」はプログラムの展開に合わせて、危険の要因を想像し、対策を考えるための安全対策の要で、作成の段階から安全管理が始まっているため、おろそかにせず作成しなければなりません。

「そなえよつねに共済」はボーイスカウト活動に基づく傷害事故等が総合的に補償されますが、食中毒や酒気帯び運転の事故等については補償されないなど注意が必要で、事故が起きた場合には、30日以内に「日本連盟 安心・安全制度推進室」へ連絡してください。

「原因・分析・対策」のポイントとして、事故がなぜ起きるかを「3回繰り返して分析してみる」こと、また対策について個人に安全責任を押し付けず、団・隊が協力して安全対策に取り組み、「個人に責任を負わせない」こと、行事の計画段階で、「再発しないか」の観点から、危険や危機の予見、予知、予防の話し合いをすることの3点から考えることが大切です。

また、事故が起きた場合の初期対応を事前に考え、準備することによって、迅速で適切な対応ができ、事故のさらなる広がりを防ぎ、スカウト活動そのものへの信頼にもつながることになります。

なお、日本連盟から各団に送付されている以下の安全管理、そなえよつねに共済についての資料が参考になります。

- スカウティング誌(2011年5月号～2017年5月号)掲載記事の抜粋2017年版
- 平成30年度版 そなえよつねに共済／賠償責任保険 手引き



## 本天沼集会所まつりに参加

## 杉並8団

10月1日（日）、杉並区本天沼集会所で「本天沼集会所まつり」が開催され、杉並8団は焼きそばとフランクフルト、ヨーヨーつりのコーナーを設けて参加しました。

好天に恵まれて、集会所内では音楽会、絵画展や缶バッジ工作などが開催され、屋外では模擬店や、産直販売、草花の販売などに多くの方が集まっていました。

杉並8団では、来場された方に10月9日（祝）に善福寺川緑地公園で開催の「一日アウトドア体験会」の案内のパンフレットを配布しました。



## 収穫に感謝して芋煮会

## 中野5団

中野5団は11月26日（日）、活動拠点の徳田教会で芋煮会を開催しました。教会の脇には団で管理する畑があり、今年は小松菜、しし唐、枝豆、多数のミニトマト、メロン5個などを収穫し、ジャガイモは長雨の影響で不作でした。

芋煮会は恵み多い収穫と教会への感謝、活動資金の確保のため、昨年に引き続き開催されたもので、礼拝を終えた教会の信者の方が多数お見えになり、里芋やキノコ、野菜がたくさん入った芋煮を賞味していただきました。

スカウトは野菜切りやおにぎり作り、配膳、食器の洗い物などのお手伝いをしました。



活動拠点の徳田教会



教会脇の畑



芋煮、おにぎりの準備



多くの方々と賑わい



スカウトも配膳のお手伝い



# ローバー100kmハイクに挑戦 中野8団 ローバー隊 小倉知樹

地区ローバー  
が大活躍!

11月18日(土)～19日(日)、第51回ローバースカウト100kmハイクが開催されました。今大会は八王子のひよどり山キャンプ場をスタートし、調布の布多天神社、町田市陸上競技場、世田谷の芦花公園、光が丘の夏の雲公園、小平1団スカウトハウス、立川市内のチェックポイントをめぐり、スタートしたひよどり山キャンプ場に戻ってくるコースでした。

24時間以内の制限の中で、各ポイントを回るルールを大変と思うか、あるいは容易だと感じるかは、人それぞれで、完歩を目指す人、13時間台のトップを狙う人など、参加する人の思いは様々です。

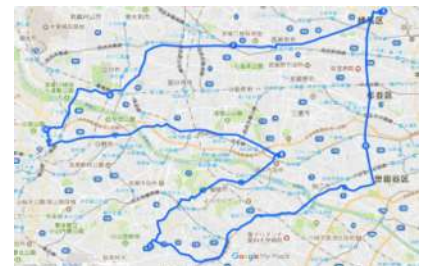
計4回渡った多摩川の堤防や、町田市内の高低差のある道路のため、昨年のコースと比べてアップダウンの多い印象でした。また土曜日の雨交じりの天候や、夜間の風と冷え込みも、今大会をややレベルアップさせてくれました。

今回私は早いタイムを狙わず、昨年に続いて2度目の完歩を目指して参加しました。前回の失敗は、長距離歩行によるケガを予防していなかったことでした。完歩はできたものの、両足のいたるところに大きな水膨れができ、左足の親指はうっ血を起こしていました。原因は一枚だけの靴下に、履きなれない靴のためで、知識と装備の両方で「そなえよつねに」が不足していました。その反省を基にした靴擦れ対策のおかげで、今年はケガもなく完歩でき、翌日からは普段通りの生活が始まり、100キロを歩いた達成感があつという間に過ぎ去ってしまいました。

参加者は333人、完歩者236人で完歩率は70.9%でしたが、あすなる地区ローバーで参加した望月海(杉並9団)、亀井洋平(杉並12団)、下川哲男(杉並12団)の皆さんと共に完歩率は100%となり、その一員となれたことをうれしく思います。

100キロを歩くこと自体は大変なことですが、一緒にゴールへ向かう他県連や他地区のスカウトとの交流は非常に楽しいものでした。来年はあすなる地区からの参加者がさらに増え、再び完歩率100%となって欲しいと思います。

(写真提供：杉並12団ローバー隊 下川哲男さん)



キャンプ場の入口



運営に参加の中野8団沼上志帆さん



実行委員と応援と地区メンバー (筆者後列中央)



開会式 国旗掲揚



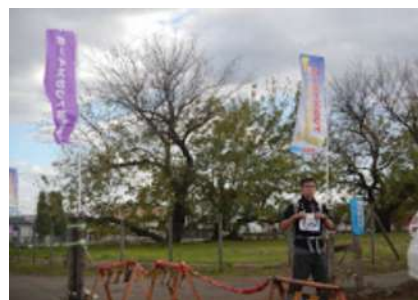
開会式 ソング



開会式 ユース実行委員挨拶



ゴールのメッセージボード



杉並12団亀井さんのゴール



警備で奉仕の島田野営行事委員長

## アメリカ開拓者キャンプに参加 杉並3団ローバー隊 内田 椋太

地区ローバー  
が大活躍!

10月13日(金)～15日(日)、稲城市にある米軍の多摩レクリエーションセンターで行われた「AFC (American Frontier Camp)」に、ローバースカウトとして参加してきました。

このキャンプは、SAJ (Scout Association of Japan) と、BSA (Boy Scouts of America) のスカウトの交流を目的としたキャンプで、毎年行われています。各地区から参加したスカウトとは別に、ローバースカウトはスカウトの世話、食事の調理等、キャンプの運営を手伝いました。



特にキャンプの2日目に行われたフィールドゲーム・オリエンテーションの運営に、ローバーとして携わりました。ゲームは日本のスカウト20～25名、アメリカのスカウト4～6名を一つのグループにし、9つのグループに分け、斧投げ、ライフル射撃、砂金取りなど、9つのコーナーを回ります。ローバースカウトは各グループに1人と各コーナーに1人ずつ付き、スカウトのサポートをしました。

スカウトはみなボーイ年代ですが、BSAスカウトは日本語が不自由なスカウトもおり、サポートする僕は、日本語と英語の両方を使わなくてはいけないため苦労しました。日本のスカウトたちはふだんのキャンプでできないような、斧投げ、ライフル射撃などをとてもおもしろがっていました。また各グループごとに点数をつけ、得点が高いチームはキャンプファイアーで表彰され、ワッペンをもらえるというので、みんないい得点を取ることを目指していました。

スカウト同士でワッペンや様々なグッズを交換したり、BSAが運営していたBSAショップで基地の中でしか買えないようなグッズをたくさん買っているスカウトもいました。

夕食後に行われたキャンプファイアーでは、僕よりも年下のベンチャースカウトがファイアマスターを行い、彼らが多くのレストランも見せてくれました。レストランは英語で進んでいましたが、英語もわかりやすく、またボディアランゲームも多く使われていたので、英語が得意でないSAJスカウトも楽しめたと思います。

今回のキャンプに参加して一番驚いたことは、BSAスタッフは日本と違って準備をあまりしっかりしていないということです。各コーナーに付くスタッフや、ローバーの活動内容は全く決まっておらず、現地に着いたときは正直びっくりしました。しかし、いざプログラムが始まると、彼らが先導し、あっという間にすべてが決まり、しっかりと活動していました。また、リーダー会議でもチーフスタッフがジョークを言って場を和ませたりして、日米の違いを感じる事がとても多かったです。

また機会があれば、さまざまな活動に参加したいと思いました。

(写真提供: 杉並8団 儘田哲夫BS隊長さん)



日米の国旗掲揚



ローバーは進行係



斧投げ



弓矢



食事の列



雨の中整列



## 八ヶ岳を縦走登山

杉並9団 ローバー隊 望月海

地区ローバー  
が大活躍!

9月8日から10日にかけて2泊3日で、杉並12団ローバー隊の亀井洋平君と、八ヶ岳を縦走しました。縦走の目的を「ベンチャー隊の進級課程の改定に伴う登山分野の技能を身につける」と設定しました。

ルートは渋の湯から樹林を抜けて黒百合平で1泊。2日目は天狗岳、硫黄岳、横岳、赤岳の岩稜を縦走してキレット小屋で2泊目。最終日は権現岳、編笠山を經由して観音平の山裾を小淵沢駅まで歩きました。9月半ばの山々は秋の気配が深まって想像以上に寒く、東京の気温とのギャップに驚きました。

私は8月中旬に杉並9団ベンチャー隊と、美濃戸口から赤岳を經由して清里へ縦走もしたのですが、今回のコースの方が行程としても倍近くあり、赤岳周辺にはクサリ場、ガレ場などの危険箇所も多いルートでした。後輩のスカウトに安全な登山の技能を伝達するためには、コースの下見の他にも、危険な箇所でも安全を確保して通過する技能を身につけなくてはならないと実感しました。

登山中は雲がかかっていましたが、綺麗な朝焼けや雲海を見ることができました。関東の山ではなかなか見ることのできない雄大な絶景や、岩かげに咲く可憐な高山植物にも心を洗われました。「ベーデン・パウエルがスカウト教育に野外活動を導入したのは、自然に心が洗われるからなのかな…?」と、身をもって体験できました。

「地区のローバーと一緒に登山技能を研究したい、一緒に絶景を見たい!」という方は、ぜひ来年は一緒に登り、地区のローバーの交流を深めましょう!



亀井と筆者(右)



綺麗な朝焼け



主峰赤岳への稜線



黒百合ヒュッテ



赤岳山頂



## 高萩自然教室デイキャンプ参加 中野8団ローバー隊 本 紗希

地区ローバー  
が大活躍!

日本連盟の野営場として、茨城県高萩市に「大和の森 高萩スカウトフィールド」が今年8月にオープンしたことから、高萩市内の全小学校の4年生と6年生、合計449人が参加して、11月6日から17日の平日に「しぜんとあそぼデイキャンプ2017 in 高萩スカウトフィールド」が一日コースとして、計8回開催され、奉仕スタッフとして参加しました。

このデイキャンプは日本連盟が主催し、「森での遊びから環境を考える」をテーマに、森林を使った環境教育を通じて、一人ひとりが「生きる力」「社会を生き抜く力」を養うことがねらいで、東京連盟からは奉仕スタッフとして、杉並3団ローバー隊の内田椋太さんほか、同年代の指導者3名が2泊3日で参加しました。

野営場に到着した小学生はグループに分かれて、ドームテントの設営、ロープワーク、まきの火でポップコーン作りや、山の中での高さ2メートルの板壁をグループの仲間で協力して乗り越えたり、斜面に張った10メートル以上のロープで作ったブランコ、ロープのつり橋など、森での遊びに挑戦しました。

参加したローバーは各グループのリーダーとして一緒に行動して指導にあたり、私は小学生約20人のグループのグループリーダーとして、小学生と一緒に各ブースを回りましたが、私たちの年代にはそれほど驚いたり、感動しないようなことであっても、小学生にとってはとても新鮮で、新しいことをどんどん学んで吸収していく姿は、とてもキラキラ輝いて見えました。

一緒に行動した小学生が、「今まで未経験で知らなかったことを今回のキャンプを体験して知る」という素敵なお手伝いができ、参加してよかったと思いました。

デイキャンプ中には、他県連のローバーや同じ年代のリーダー達とキャンプの運営の打合せなどを行い、交流を深めました。またこのような機会があったらぜひ参加したいと思います。

(写真：日本連盟facebook)



## 日本連盟ダウンロードセンターを活用して名刺作り

日本連盟ホームページの「PRツールダウンロードセンター」は、広報活動や組織拡充活動のためのポスターやパンフレット、ムービー等の広報ツールを利用できるサイトで、このサイトに掲載されているロゴ等は、ボーイスカウトの広報活動や組織拡充活動に使用でき、使用ガイドに従って、隊や団で発行する機関誌、ホームページ等で使用する場合は、使用許可の申請は不要となっています。

日本連盟のロゴが入った名刺もダウンロードして印書し、個性の伝わるオリジナルの名刺を作ることができます。

